

海軍ニュース：大連 001A 空母の技術分析

漢和防務評論 20170404 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

大連空母 001A の建造進捗状況の記事を紹介します。
中国はウクライナ技術者の支援を受けて、突貫工事に取り組んでいるようです。
艦橋が巨大であることがわかります。



建造中の大連空母 001A (産経ニュースから)

KDR バンコク特電：

共同通信社の消息筋報道によると、大連 001A 空母の建造は 24 時間態勢で作業が行われているという。しかしこれは不思議でも何でもない。空母遼寧の場合も進水直前は夜間も作業を行っていた。通常、春節の前は、中国軍事工業の生産スピードがやや加速する。重要な進水作業はその前後に完了する。

このほか、巨大な艦橋の写真を見ると、001A が装備するのは 052D ミサイル駆逐艦と同じ大型フェーズド・アレイ・レーダーであることが確認できた。レーダーの取り付け方法は原型のワリヤグとは異なり、001A は艦橋前部の 2 つの大型アンテナの開度は約 45 度で、後部にも 2 つの同じアンテナがある。4 つのレーダーで 360 度をカバーしている。工事全般の光景は遼寧艦の時と酷似している。ワリヤグのレーダー取り付け方式は水平で、360 度をカバーしていた。今のところ、瀋陽航空機会社生産の J-15 は増えていない。やはり生産能力が低いのであろうか？或いはパイロットが不足しているか？知る由もない。ロシアのクズネツォフ空母と SU-33 艦載機は、当初同様の問題に直面した。SU-33 が 24 機配備されてもパイロット不足のため、実戦配備できる SU-33 は 16 機以下

であった。

KDR が独自に入手した 001A の写真を見たところ、甲板部分の溶接技術は正常であることがわかった。大きな亀裂や不均等な部分は発見できなかった。縦方向は手作業による溶接であるが、横方向はロボットを使用したか、注意すべきである。

KDR は、遼寧艦の建造以来、中国がこのように迅速に作業が出来るのは、ウクライナ技術者の指導がなければ不可能である、と思っている。**KDR** は、過去に何度もキエフを訪問したので、相当多くのウクライナ技術者が個人の身分でハルビン、上海、大連を訪問し、動力ボイラー、組立技術に関して” 学術交流” を行っていたのを知っている。ハルビンのボイラー工場へのウクライナ技術者の訪問は、国家レベルの事業であった。

以上